

所 報

題字：武田満之校長（平成9年、野幌中学校）

第180号 令和6年1月26日

江別市教育研究所所報

江別市高砂町 24-6 TEL381-1058

（主な内容）

・ R5 年度学力向上策ヒアリング報告について

令和5年度学力向上策ヒアリングを終えて

江別市教育委員会 学校教育課指導主事

本年度の「学力向上策ヒアリング」を9月～10月に実施しました。お忙しい中、校長先生、教頭先生はじめ主幹教諭や教務、研究等の担当の先生方の出席をいただきました。各学校の実態を踏まえた特色ある学力向上の取組について伺うことができ、誠に有難うございました。

江別市の令和5年度全国学力・学習状況調査の結果、江別市学校改善支援プランより課題改善策の一部抜粋、各小・中学校の学力向上の取組の一部を紹介させていただきます。

全国学力・学習状況調査の詳しい結果は、江別市教育委員会のホームページに掲載しています。

1 令和5年度 全国学力・学習状況調査の江別市の調査結果

[平均正答率:単位(%)]

	小 学 校		中 学 校			備 考
教 科	国語	算数	国語	数学	英語	
江別市	70.4	65.1	73.3	52.5	46.5	北海道及び江別市の正答率は、道教委、江別市教委が独自に算出した結果です
北海道	65.8	61.0	69.4	49.3	43.9	
全 国	67.2	62.5	69.8	51.0	45.6	

＜教科に関する調査結果＞

- 小学校6年生は、国語、算数ともに全道、全国平均を上回っています。
- 中学校3年生は、国語、数学、英語ともに全道、全国平均を上回っています。

＜質問紙調査に関する結果の概要＞

- 「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う」割合は、小学校、中学校ともに100%（中学校は3年連続100%）で、全国平均を上回りました。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」割合は、小学校、中学校ともに全国平均を大きく上回り、大変落ち着いた状態にあると言えます。
- 「自分にはよいところがあると思う」割合は、小学校、中学校ともに全国平均を上回り、子どものよさを認めるよう声かけを行うなど、各学校で行われている自己肯定感を育む取組の成果が表れています。
- 「ICT機器を活用した授業をほぼ毎日行った」割合は、小学校、中学校ともに全国平均を大きく上回り（中学校は3年連続100%）、ICT機器を活用した授業が積極的に行われています。
- 「昨年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣の小中学校と成果や課題を共有した」割合は、小学校、中学校ともに100%で、全国平均を大きく上回り、今年度から始まった小中一貫教育の柱の一つである「一貫した指導」の充実に向けた取組が進められています。

2 調査結果から見られる課題の改善のために

（令和5年度「江別市学校改善支援プラン」より）

(1) 全国学力・学習状況調査・NRT学力検査

全国学力・学習状況調査では、小学校6年の国語・算数、中学校3年の国語、数学、英語ともに全国平均を上回っています。領域別では、小学校6年はすべての教科・領域で全国平均を上回っています。中学校3年は、数学の「データ活用」、英語の「書くこと」が全国平均を下回りましたが、その他の教科、領域は、全国平均を上回っています。

NRT学力検査では、小学3～5年の算数が全国平均をやや下回りましたが、小学校3～5年の国語及び中学2年の全教科で全国平均を上回っています。領域別集計では、小学校3～5年の算数、中学校2年の数学で、それぞれ1～2領域で全国平均を下回っていますが、その他の教科、領域は、全国平均を上回っ

ています。

どの教科にも共通して言えるのは「根拠を明確にして説明する」力が弱いということです。自分の考えを説明する場面や対話の場面を意識的に多く設定し、子どもたちが自分の考えを説明する機会を増やしていく必要があります。そのためには、早急に教師一人一人が授業改善を図っていかなければなりません。また、ICT機器の効果的な活用、家庭学習の習慣化、学習サポートの充実等についても、工夫して継続する必要があります。

(2) 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙

児童生徒は落ち着いて授業に臨んでいるが、望ましい生活リズムの確立や家庭学習の定着に向け、学校と家庭が緊密に連携した取組を継続する必要があります。

自尊意識を問う設問では、小学校6年では全国平均を上回ったが、中学校3年は全国平均をやや下回っています。今後も、教育活動全体を通じて、一人一人のよさや可能性を見だし、それらを発揮できる場を設定し、自己肯定感、自己有用感を高める教育を充実させていく必要があります。

(3) 学力向上策ヒアリング

それぞれの学校で、児童生徒の実態を細かく分析し、実態に応じた学校改善計画を立て、実施しています。しかし一方で、いまだに授業形態を変えられずに、教師中心の授業を行っている教師も多く見られ、各学校の大きな課題となっています。一人一人の教師の意識改革を行い、早急に授業改善を進めていかなければなりません。

3 学力向上等の取組

(1) 学校改善プランの検証、作成

学校改善プランの作成は、すべての小・中学校で主幹教諭及び教務主任が中心となって作成しています。また、学力向上委員会等の特別委員会を設置していない学校がみられますが、既存の教育課程委員会や校務部会等を活用して作成しています。

学校改善プランを実効あるものにするために、その学校の児童生徒の実態に応じた教育課程の編成や短期及び中・長期的な検証サイクルを活用し、継続的な学力の向上を図るよう働きかけていきます。

(2) 小中一貫教育における教科系統表の活用状況

① 小中一貫教育の進捗状況

今年度から小中一貫教育が全面実施され、すべての学校で連携会議や部会（分科会）を定期的に行っています。小中一貫教育の中心は主幹教諭や教務主任が担っており、その中学校区で連携を密にしています。また、教職員の意識も高くなってきました。

部会（分科会）では、各教科の系統表の見直し、小中共通の学習規律や生徒指導の共有化、小中9年間の家庭学習の手引きの作成などの取組を進めています。

② 具体的な内容

各種学力調査結果の交流は、すべての中学校区で行われており、課題の共有化と指導の改善が進められています。

教科系統表については、複数学年で繰り返し指導するポイントを明確にし、教科系統表に書き込むなど、小中の系統的な指導に向けた取組が進められています。学校で指導案に小1から中3までの単元の系統を記載するよう、ヒアリングや学校教育指導等での学校訪問を通して、研究教科を中心に記載するよう働きかけてきました。また、多くの中学校区では、互いの学校の研究授業の参観を行っています。

小中一貫教育を進めるに当たり、小小連携の大切さを認識するようになってきています。大麻中学校区では中学校入学時の足並みを揃えるため、3つの小学校が研究テーマを統一するよう模索しています。

(3) ICT機器の活用

ICT機器については、小中学校ともに、大型多機能ディスプレイとデジタル教科書、タブレットを中心に日常的に活用されています。

タブレットについては、グーグル・クラスルームやグーグル・フォーム、ジャムボード、スカイメニューなどの利用が多く、ほとんどの学校で「ほぼ毎日活用している」状況にあります。また、全ての学校で土日に持ち帰らせ活用させています。

ICT活用のための研修については、すべての小中学校で実施しており、普段から得意な先生に教えてもらうなどの交流研修が行われている学校も多く見られました。